

第10回

# さくらサミット *i n* 北区

「さくらがつくる歴史と文化—わがまちの桜—」



東京都北区

## 第10回さくらサミット in 北区

「さくらがつくる歴史と文化—わがまちの桜—」

**記録誌**

主催：東京都北区

## タイムスケジュール

4月5日 (日)

13:00

開会

13:15

基調講演

「さくらと日本人」

講師／ジェームス三木 (作家・脚本家)

14:10

サミット

「さくらがつくる歴史と文化—わがまちの桜—」

コーディネーター／篠田伸夫 (〔財〕救急振興財団副理事長)

パネリスト／17自治体代表

17:00

閉会

## 参加自治体出席者紹介

北海道 静内町長	／	増本一男
宮城県 柴田町長	／	平野博
秋田県 角館町長	／	高橋雄七
茨城県 日立市長	／	飯山利雄
群馬県 鬼石町助役	／	荒川昭二郎
埼玉県 北本市長	／	新井馨
埼玉県 幸手市長	／	増田実
新潟県 上越市助役	／	藤原満喜子
新潟県 加治川村長	／	秦野喜平
長野県 高遠町産業課長	／	丸山良巳
奈良県 吉野町長	／	福井良盟
鳥取県 西伯町助役	／	中川正昭
島根県 木次町助役	／	小村伸治
長崎県 大村市観光課長	／	坂口修
熊本県 水上村収入役	／	原田凱喜
宮崎県 北郷町長	／	植野章一
東京都 北区長	／	北本正雄

## 基調講演

# 「さくらと日本人」 ※講演要旨



### ●講師/ジェームス三木 (脚本家)

昭和10年生まれ。昭和30年テイチク新人コンクールに合格し13年間歌手生活。その後シナリオコンクールに入選し、脚本家となる。他に舞台演出、映画監督、小説、エッセイなどを手がける。「滞つくし」「独眼竜政宗」「八代将軍吉宗」などのテレビドラマ代表作がある。

歴史の文献をチェックしていきますと、歴史の文献というのは7割ぐらいはうさん臭い。私が疑いぶか過ぎるのかもしれませんが。

吉宗が飛鳥山に桜を植えたというのはウソか。これはウソではないと思います。いろいろな証拠がありますから。ただ、吉宗本人が考えたかどうか。大岡越前守というのは名裁判官ではなかったけれども、東京都知事のような名官僚だったんです。おそらく大岡越前守あたりが考えて進言したのではないか。当時、江戸という町は、大名屋敷、武家屋敷が半分以上を占めていまして、下町の庶民の町は家が大変窮屈に建っていて、火事が起きると大変なことになった。「火避け地」という空き地をあちこちに作ったんです。空き地を作ったんですね、焼け死んだりしないように。火避け地をあちこちに作って、それだけではもったいないというのでそこに桜を植えたというのが大岡越前守のいろいろな手柄の中にありますので、おそらくその一環の中で行われたのではないか。部下が手柄を立てますと皆トップの手柄になりますから、吉宗が作ったのだということになっている。内情はそういうことではなかろうか。これは私の憶測なんですけれども、そんなことをちょっと考えたりしました。

歴史の文献を読みますと、私は歴史学者ではないだけに変なことに気がつきます。吉宗という人は6尺豊かな大男であったから、かごを担ぐ人は大変だったろうとか、吉宗のかごはもっと大きくつくったかどうか、担ぐ人はどんな人だったか。そういうことを考えてふと文献の一部を見ますと、吉宗は夏になるとかごから降りて裸で歩いたと書いてある。それで何か納得がいたりする。

私はおもしろいことを発見したのですが、江戸時代は参勤交代というものがあります。参勤交代の季節というのは、陰暦でいうと、3月と9月、今でいうと4月と10月です。まさにこれは桜の季節、そして紅葉の季節なんです。そのときに大名が移動するんです。そうしますと、西のほうの大名が江戸城

に向かって参勤交代で来るときは、毎日花見をしながら桜前線と一緒に移動したということになるのです。大変優雅な風流な話だと思います。桜前線とともに、和歌山県あたりで2週間かけて来ますから、江戸へ毎日毎日花見をしながらやって来た。今度、帰国するときは、10月だとしますと紅葉前線です。紅葉を毎日見ながら紅葉前線と一緒に移動したということが読み取れるのです。なかなか昔の人は風流なことを考えたものだと思います。

ここでは「さくらサミット」といいますけれども、もともと日本では「花」といえば「桜」のことなんです。「梅見」とか「菊見」とかいいですけど、「桜見」とはいわないのです。「花見」といえばもう「桜」なんです。桜というのは日本文化の象徴といっているといいでしょうね。

桜の何がいいのか。私は梅の花も好きですけど、梅の花はちょっとツーンとした感じがします。品があるといえばそれまでですが。桃の花はとっても親しみ深いのですが、何だか野暮ったい。桜というのはそういういろいろな意味で、いいんですね。日本人が昔から桜を愛してきたというのは、もちろん美しさもありますが、昔は精神的な意味で、もっと桜というものを深く見ていたと思います。桜の特徴には「ぱつと咲いてぱつと散る」ということがあります。日本人の潔さとか、奥ゆかしさとか、そういうものにつながっている。あるいは桜に日本人は教えられてそうなったのかもしれない。

もう一つ、椿などはポロッと一つずつ散りますけれど、桜は散るとき一斉に散ります。バァーッと花吹雪となって散ります。集団で散っていく。ちょっと危険な考え方ですけども、なんでも集団でやってしまう。そういうところに日本人の特質というのが現れているのではないかと思います。今はもう花を見るといいましても、昔と違って花を見ないで宴会をやっている。早く行って場所取りして上を見ないで食べ物ばかりでやっているという状況になっていますが、秀吉に代表される「吉野の花見」とか「醍醐の花見」とか、仮装をしたり、いろいろな趣向をして大変花見を楽しんだという歴史が残っています。

昔は日本人というのは、特に武士は「花は桜木、人は武士」というように、桜を生き方の手本にしたところがある。立ち振る舞いからなにかから大変気にしたものです。「武士のたしなみ」というのは当時「能」と「お茶」です。お茶と能を一生懸命やった。立ち振る舞いをどんなに気にしたかということが分かる。

桜の美しさには「散りぎわの美学」というものがあります。あの散り方がいかにも素晴らしい。昔の日本人の心を打ったのは、人間は必ず死ぬのだ。最後は死ぬのだが、そのときいかに価値のある死に方、美しい死に方ができるかと、一生懸命考えたんです。美しい生き方というのは美しい死に方につながったんです。桜の散り方というのは、ちょっと武士道の中では曲げて考えていると思うのですが、人を殺せとは絶対に桜はしていない。散り方をきれいにしろといっているのです。責任をちゃんと取れとか、そういうことではないでしょうか。散りぎわがみっともない。大企業のトップが最後に、会社が潰れそうになって泣いたりする。責任がだれにあるのか、トカゲのしっぽを切っていったりする。

どうも桜に対して申し訳のない生き方を、今しているような気がします。

美しく生きる、美しく死ぬ、これは桜が私たちに教えてくれている本当の心ではないかと思います。

## パネルディスカッション 「さくらがつくる歴史と文化—わがまちの桜—」



●コーディネーター／篠田伸夫（〔財〕救急振興財団副理事長）

●パネリスト／17自治体代表（北海道静内町、宮城県柴田町、秋田県角館町、茨城県日立市、群馬県鬼石町、埼玉県北本市、埼玉県幸手市、新潟県上越市、新潟県加治川村、長野県高遠町、奈良県吉野町、鳥取県西伯町、島根県木次町、長崎県大村市、熊本県水上村、宮城県北郷町、東京都北区）

### ■開会にあたって

〔東京都北区・北本〕 それでは最初に開催地でございます、北区といたしましてごあいさつを申し上げたいと思います。「さくらサミット」を開催いたしましたところ、本日は参加を頂いております各市町村長さんをはじめ関係団体の皆さん方には、新年度早々ということで大変お忙しい中で、しかも遠路でございますが、はるばるのご参加を頂きまして、心から厚く御礼を申し上げたいと思います。また本日は基調講演を頂いた三木さん、さらにコーディネーターをして頂きます篠田さん。このおふた方には大変お忙しい中で、快くお引き受け頂きまして感謝に耐えないところでございます。そしてまた会場のほうには参加される各自治体から、関係の団体の方にもお出で頂いております。そして地元からはご来賓をはじめとして、区内の各団体等の代表をされる方にご参加を頂いております。会場の皆さん方にも厚く御礼を申し上げさせて頂きたいと思います。私ども北区が今回の10回目となります「さくらサミット」を開催させて頂くことが出来たことを、私ども北区はみんなでもよこんでいるところでございます。

ところで今年は一時暖冬ということがささやかれました、このことによって桜の開花が早まるのではないかという心配がございました。しかし幸いに今ちょうど桜の花だよりも、全国各地をはしり回っているというような状況に遭遇することができました。大変に幸せに思うわけでございます。私ども北区では 8 代将軍吉宗によって、桜の名所となりました、飛鳥山公園もいま桜が、ちょうど満開になっております。3 月末に区立そしてまた民営の三つの博物館が、同時にオープンすることにより、これとちょうどあいまって、しかも昨日は、さくらSA-KASO祭り実行委員会のみなさんによる仮装行列まで出て頂いて、大変な賑わいを示したところでございます。

さて今回の「さくらサミット」は島根県の本郷町の呼び掛けにより始まりまして、回を重ねて今回がちょうど 10 回ということになるわけです。この間にさくらを共通のテーマとして蓄積されましたところの提言あるいは諸施策、これは参加された自治体のそれぞれの貴重な財産ということになってきておるわけです。本日開会させていただきますサミットでは、これまでこうして蓄積をされたところの財産を総括する観点に立ち、さくらがつくる歴史と文化、これをテーマにいたしまして皆さんからわが町のさくらのご紹介を頂いたり、あるいは情報交換をして頂く。そういう場にして頂ければということをお願いしているわけでございます。この会がさくらの文化の進展に向けた、極めて有意義な会議となることを期待して、私の開会に当たりましてのごあいさつにさせていただきます。それではこれから開会をさせていただきます。つきましてはコーディネーターの篠田さんに後の進行のほうをお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

#### ■はじめに——さくらサミット 10 年の歴史を振り返る

〔篠田〕 それではバトンを引き継ぎまして、私のほうで司会進行役を務めさせていただきます。今まで 9 回のサミットが行われてきたわけですが、私は今回初めて参加させていただきました。コーディネーターという大変重要な仕事をあてがって頂いたのですが、非常に不慣れでございます。みなさん方の御協力を、ぜひともよろしくお願いを申し上げたいと思います。

それではサミットに入るわけですが、ただいまも北本区長さんからお話がありました。今回で「さくらサミット」も第 10 回目を迎えたわけです。ということはこの間 10 年の歴史が、積み重ねられてきたということになります。日本各地でサミットと称する、こういう催しというのは大変多くあるわけですが、10 年間という長い間、サミットが続けられているものは大変珍しいと聞いております。そういう点では非常に自慢していい、サミットではないかと思うわけです。そこで具体的な討議に入ります前にこの 10 年間、9 回まで行われましたサミットにつきまして、若干私のほうから経過などをご報告させていただきます。

第 1 回のサミットは、先程紹介がございましたが、昭和 63 年の 4 月島根県の本郷町で開催されたわけでございます。実はその 1 年前昭和 62 年の 6 月に四全総、第 4 次の全国総合開発計画と

いうのが策定されておりました。当時のことを呼びさまして頂きますと分かりますが、当時は東京一極集中というのが大問題でございました。そういうことで東京一極集中の是正と、多極分散型国土の形成ということを目指して、四全総が策定されたのです。そういう時代背景のもとで、第 1 回のサミットが東京以外の所で開催されたというのは、大変象徴的であったのではないかと思います。

さて「さくらサミット」はどういうねらいをもって、開催しようとしたのでしょうか。第 1 回のサミットでは次のようなことをいっておりました。まず地方自治体というのは、成長を続けていかなければいけない。そのためには自治体同士の協力関係をより一層強めることが必要である。そのための具体的な施策といたしまして、四全総でうたわれる地域間交流、この言葉は一つの時代的なキーワードでございましたが、その地域間交流を促進することが今こそ求められている。そこで桜を看板として地域振興を行っている全国の町村が一堂に会して、お互いに情報を交換し、桜を通じて自治体の活性化を図ろうではないか。また 21 世紀への未来を開く大きな原動力としようではないか、ということで「さくらサミット」を開催することにしたのだということがうたわれておりました。以来 9 回のサミットが開催されたわけですが、そういうところでどうということが議論されてきたのか。これも皆さんがこれから発表をお聞き取り頂く参考のために、簡単にご紹介を申し上げたいと思います。

第 1 回から第 9 回までの議事録を読ませていただきました。それを整理いたしますと大きく三つぐらいに問題を整理できるかと思います。一つはさくらによる地域の活性化は、どのようにして可能かという総論的な問題でした。これに関連してなぜさくらなのか。さくらと地域との関係を、文化の面から考えておくべきではないかということも問題提起としてございました。二つ目の問題はさくらの管理はどのようにすればいいかという各論的な問題がございました。三つ目も各論的な問題ですが、さくらが咲きますと大変多くの方が訪れます。自動車もたくさん集中して来ます。交通渋滞、トイレの問題というのが出てまいります。それをどのようにして解決できるかという問題。大体この三つの大きな問題があったかと思います。ちょっとだけそれらについて、説明を加えて行きたいと思います。

さくらによる地域の活性化、あるいはさくらによるまちおこしといってもいいと思いますが、そういうことについて、果たしてさくらによってまちはおきるのか。端的に「さくらで飯が食えるのか」とこういった単刀直入な問題提起が第 1 回のサミットでございました。このことにつきましては、サミットに参加されている自治体のトップの皆さんは「いやいや金儲けをするために、さくらを使おうというのではない。まちづくりだとかまちおこしというのは、住民全部を巻き込んでやるものなのだ。そのためには何かシンボルになるものがあると、住民の心が一つになりやすい。さくらはそのための地域のシンボルなのだ」こんな共通の理解がなされたように思います。

さてその地域の活性化の問題ですが、地域の活性化というのは定義がなかなか難しいのですが、要するにそれぞれの地域から生き生きとした情報を発信することといっているかと思います。そのた

めには人と人との交流の人口、いわゆる交流人口を増やすということが大変重要なわけです。つまり端的にいつてしまえば、1年を通して多くの観光客に来てもらうといったことかつ、地域の活性化のための大変重要なポイントではないかと思えます。そこで、さくらを中心にしながら「さくらと史跡・名所」「さくらと温泉」、あるいは「さくらと花の町」といった風に、さくらと他の資源との有機的な組み合わせによる活性化を図っているという報告がたくさんありました。またさくらを資源とした観光物産化ということで、有名なのは角館の樺細工がございいますが「いや自分のところでは、このようなことをやっているのだ」といういろいろなアイディアの披露がございました。

二つ目のさくらの管理の問題ですが、さくらというのは必ずしも強い植物ではないようです。それだけに手入れがきわめて大切だというわけです。そういうことになると、いたずらにさくらの本数を増やすというを追求するのは、いかななものかという問題の提起もございました。また十分な手入れのためには、お金がかかります。ではそのお金をだれが負担するのか。逆にいうと行政はどこまでを責任領域として考えたらいいのか。こんな深刻な問題の提起もございました。高遠町では入園料を取っているという報告もございました。また手入れには技術を要するわけです。そういう技術情報というものを、官民一緒になった交流会をやって、お互いに学ぶということをしたらどうなのだろうか、という提言もございました。

三つ目の問題ですが、交通渋滞、トイレの問題。これは毎年毎年繰り返されている、大変悩ましい問題としてございます。しかもさくらの咲いているその自治体だけではなく、交通渋滞となりますと、遠方つまり広域にまで迷惑が及ぶということになりますので、大変深刻な問題が出てきます。駐車場とかトイレの問題は、数を増やすしか手がないのではないかとこのように思います。しかし交通渋滞ということになりますと、例えば大型の車だけの乗り入れを許しましょうとか、シャトルバスを活用するといった工夫をしている報告もありましたが、根本的には道路問題にまでつながってくるということで大変深刻なんですね。以上のような問題が皆さんから指摘されたわけです。そういうような経過をたどって、いよいよ第10回目が本日になったわけです。今回のテーマは「さくらがつくる歴史と文化—わがまちの桜—」ということでございます。北本区長さんからは10回目ということで、総括をするという意味で「御国自慢をしてもらって結構です」という話でした。御国自慢とともに10年間の歩みや、その他提言を頂ければ幸いかと思っております。

今日は17の自治体にご参加を頂いております。そういうことでまず前半に九つの自治体から発表を頂きます。その後会場の方からのご意見も伺いながら、フリーディスカッションをします。そして後半八つの自治体から発表を頂く。そしてまたフリーディスカッションをという順序で参りたいと思っております。発表の要領は、この後ろにございます9面マルチビジョンに、1分間くらいのナレーションを含めて発表する自治体の、ビデオによる紹介がまずされます。その後3分ないし3分半程度、ここに座っていらっしゃいます各首長さん方から、いうならば自慢話を頂くということ。3分間を

ぜひとも守って頂きたいというように、重ねてお願いをしたいと思います。場合によっては私のほうから、コメントを若干することもあるということで、1自治体あたり5分間ということで進める予定でございます。

それでは早速発表に入るわけですが、皆さん方から向かって左から右への順序で発表をして頂きます。まずは北海道の静内町のほうから紹介ビデオの上映の発表をお願いいたします。

#### ■各町の紹介#1(静内町・柴田町・角館町・日立市・鬼石町・北本市・幸手市・上越市・加治川村)

〔北海道静内町・増本〕 さくら前線が南から北へ上がっていくというのが常識です。したがって私ども北海道は最後のはずなのですが、今日は1番トップバッターということで大変張り切らせて頂いております。2年前の平成8年に私の町静内町でこの「さくらサミット」を開かせて頂きました。あいにくの雨、そして寒冷で全くお越し頂いた皆さんに、満開のさくらを見て頂くことができませんでした。昨年は上越市、そして今年はこちら、ご当地で、ちょうど満開のさくらを見せて頂くことができました。昨年の上越の宮越市長さん、そして今年の北本区長さん、この日を設定したことに対してまずもって敬意を表しさせて頂きたいと思えます。先程も紹介がありましたように馬の産地でございます。「さくらの満開の予想と競馬の予想はよく外れる」とこういわれていますが、このびたっと当てたご慧眼にまずもって敬意を表しさせて頂きます。

静内町のさくらはかつて宮内省の御料牧場という牧場がございました。この敷地の中に植えられた直線で延長7キロ、道路の幅が昔の流儀でいいますと20間、36メートルでございます。この道路の両側にさくらが植えられています。これは大正5年から大正7年まで、3年かけて植えられた。植えた翌年から花見ができたというようにいわれています。樹齢20年前後の木を持って来て、植えたといわれています。これは当時の皇族の方々が静内にお出でになる時に、花見を楽しめるというような目的で植えられたそうです。当時の宮内省の財力をもって作られた、素晴らしいいわゆる桜並木でございます。昔は農作業の後等にここで地域の人が集まって、花見をしたといわれていますが、最近のご存じのように車で往来ができる花見街道になりました。そして特に強調できるのはさくらの木の下に車を乗り入れて、そこでジンギスカンやバーベキューを楽しめるといった、壮大なスケールを持った街道でして、北海道全土あるいは全国の皆さんからお馴染みを頂いております。最近の道路事情が大変窮屈になって、私どものような北海道でもやはり花見の時期には、交通渋滞を起こすというようなかっこうになっていますが、これは私どもの町あるいは交通安全協会そして警察署、全ての組織が出動いたしまして、この期間中交通整理にあたり渋滞のないような配慮をしているつもりでございます。したがってぜひまだ1カ月くらい後でなければ咲きませんが「北海道にお出での節はお寄りを頂きたいな」と思っております。

先程申しましたように、樹齢20年前後の木を植えています。植えてから80年、したがって100年

余の樹齢のいわゆる老木になりました。この木の管理が大変でございます。毎年樹木医なるものを呼んで数百万の金を投下し、診断治療を行っています。なかなか若木が育ちにくい中で老木を守っていくということ。これが大変なことですが、私どもはこれは地域に残された先代の貴重な財産として引き継ぎ、そしてまた後世に残していく努力をしたいとこのように考えております。

北海道はちょうど今、馬の仔が生まれています。非常に見応えのある時期でございますので、「ぜひ静内のさくらも一度ご覧になって頂きたい」とこのようにお願い申し上げて、一言宣伝に変えさせて頂きます。

〔篠田〕 馬というのは桜肉とも申しますが、桜肉もあたらぬのですよね。何かそういう点では、いろいろな面で当たらないことに縁のある静内町さんのようでございます。それでは次に宮城県の柴田町の発表です。

〔宮城県柴田町・平野〕 ただいまご紹介ありがとうございました。実は今朝早くから飛鳥山の花見をさせて頂きました。10時半ごろに行ったのですが、もういっぱいでした。大体きれいといったほうがいいが、しかし、ゴミも結構わがまちなみに落ちているなど大変気になりました。私の町には仙台大学という大学があります。単科大学で、ボブスレー、リュージュでオリンピックに出たりしています。この東京都からも就学しています。その他挙げますと長野県、あるいは北海道から3人くらい入っています。というのは仙台大学の所在町であるから、その卒業生が町役場に入る。人口4万足らずであります。北区の11%ちょっとくらいの頭数。それから税収は意外といいのです。20%を超えています。予算規模においても大体8.7倍くらい北区のほうが多いです。

町自慢といっちはなんですが、さくらの会がありまして1年に50本くらい植えています。一遍に植えたいいいのではないかと、それはだめですね。誕生日とか結婚祝いであるとか、そういう場合に、5~6,000円の寄付をもらってそれで植えていく。つまり木を植えるというのは、心を植えているということ。これを20年間続けて1,000本を達成した。去年このお祝いをやったわけです。交通渋滞はおっしゃる通りです。それでも「駐車場は作るな」と私はいっています。税金という町民の金を使ってなぜ駐車場を作らなければいけないか。郊外の空地を利用して「お客さんはそこから町を歩いて、ぶらぶら歩きながら、ものを買いながらそして城址公園に来てほしい」という気持ちがあるからです。

もう一つは『樅ノ木は残った』で有名な山本周五郎の最終の代表作品。その檜舞台が原田甲斐宗輔のこの城址公園です。

つまりはさくらを切り口にして、いろいろな町おこしを始めているのは、よそさま並みであります。ただ観光客、観光客といっても、1番に大事なことは地元の人達に楽しんでもらう。老後を楽しく、住み着いている人はこれからもずっと住み続けたいような、そういう町づくり、花づくりに力を入れて

おります。

〔篠田〕 皆さんの正面の9面マルチには出て来ませんが、モニターテレビには予定時間と出ているので、あまり長くしゃべりますとぱつ、ぱつ、ぱつと点滅するようになっていきます。ポケモンではありませんが、ひっくりかえらないようにしなくてはいけません、守って頂きましてありがとうございます。先程さくらと文化の関係について基調講演でありましたが、今も木を植えることが心を植えることであるという、そういう文化につながる話がありました。それでは次に角館町の発表です。

〔秋田県角館町・高橋〕 ご紹介のように、秋田新幹線が出来ましたので3時間10分くらいで東京駅に来ます。1日に角館駅に停るのは12本ですがどうぞお寄り下さい。見ごろは、4月の24~5日頃から5月の初めの連休のころが、ちょうど見ごろです。

今日は歴史と文化ということでありますが、私どもは町づくりからさくらが関わっております。今は高齢化社会であります、うちのほうのさくらも高齢化社会でありまして、どうして永らえていこうかというのは大変な作業であります。シダレで200年位桜木内川堤でも、天皇陛下の年齢より少し上ですから手入れもまた大変です。ようやく町の職員の中から樹木医が出来て、今日来ていますが、いろいろ専門的なこともやっていると、どうしたら次の世代のさくらを植え替えていけるかということが、角館の歴史にもつながっていくわけでありまして。そういう意味でも私の代でだめになったという、後で歴史に書かれますので、これはどうにか避けたいと思って頑張っています。

期間中大体80万くらいの方が訪れますが、この通り広い会場ですので100万人来られても大丈夫、宴会はできますからどうぞおいで下さい。国の文化財地域と一緒に来たかたちのさくらです。やはりさくらというのはさくらだけを切り離してやるとさくらが気の毒になります。私どもはできればさくらと水とか、武家屋敷とさくらということで、さくらにとっても私どもにとっても恵まれているところだと考えています。

さくらの寿命のことですが、手入れが大変ですので今年の4月の22日はさくら守で有名な佐野藤右衛門さんにお出で頂いて、大分苦言を呈されておりますので、診断をして頂きます。それから武家屋敷通りは、来年から車を入れないようにしようということで、いま歴史の道筋の工事を急いでいるところです。また今年は安達瞳子さんをお呼びしまして、4月24日ですか、花手前を角館でやって頂いてテレビで全国に紹介しようと思っているところです。いずれにしてもさくらの命はぱつと散るのでありますが、毎年花を咲かせてくれるさくらに私どもは感謝しながら、次の年もいい花をずーっと続けていけるようなかたちで、守っていくということが使命だと思って頑張っております。どうぞお出で下さい。



〔篠田〕 角館町さんは第1回のサミットから、ずっと欠席をしないで参加して頂いております。樹木医というものを職員の中に誕生させたという、非常に桜を大切にしている町でございます。私達もそういう姿勢を、学ばなくてはいけないのではないかなと思うわけでございます。それでは続きまして、日立市の発表です。

〔茨城県日立市・飯山〕 東京から約150キロ圏内の日立でございますが、まだ日立には桜前線がやっと届いた段階でございます。満開になるのは11、12日ごろではないかと思っております。先人が桜を植えた歴史は古いものがございます。しかしこれをまちづくりに利用しようという、今を生きる私達の課題として取り上げたのは最近でございます。そういう意味ではこの「さくらサミット」のメンバーでは、私は後発の位置にあると思っております。自慢話ではなくて反省とこれからの覚悟を決めて、勉強をしたいということでございます。

私は桜のまちづくりについては、三つの段階に分けて考えています。一つはもともと日立と桜の関わりの最初は、日立鉱山という銅を精錬する過程で、大変大きな社会問題としての煙害対策がございました。その対策として当時の企業が、住民と一緒に長い年月をかけて、桜を中心にした樹木を周辺の山や町に植えたということがスタートです。

第2段階としては、ほとんど特別のことをしなかった時代がございました。いわば年に1度のお花見シーズンに浮かれるだけで、その桜に対してなんの手当もしなかった時代があったと思いません。

そして第3段階が、ここ数年来の日立の動きです。これはもっぱら市民運動の動きとして、いま大きく動きつつあります。今日この会場にその市民の皆さん方がお見えになっておりますが、いろいろなグループがいろいろな提言を行政や市民にしておりまして、日立の桜のまちづくりは、これから本番ということだろうと思えます。いろいろ問題があるようですが、私は桜を通して日立というまちを愛する。そしてその愛することを通して市民の心の絆を強めていくということの、一つのシンボルにしたいと思っております。

〔篠田〕 3段階に分けて大変分かりやすくご説明頂いたのですが、後程フリーディスカッションの時に、あるいはご質問させてもらいたいと思います。3段階目に至って市民運動として、大変いま盛んにやっつけらっしゃるというわけですが、何がきっかけでそこまで盛んになったのかということ、後から訊いてみたいと思います。それでは次に群馬県の鬼石町の発表です。フユザクラがなぜ珍しいかということも、説明を加えてもらいますとありがたいと思います。

〔群馬県鬼石町・荒川〕 鬼石町は今、テレビでご案内のように1年に2回咲く桜を持っ

ております。特に冬11月の半ばごろから12月にかけて素晴らしい、山の上で紅葉と共に咲く桜です。この桜は明治41年、当時の三波川村村長でありました、飯塚志賀翁という方が戦勝記念の一つとして、村中の者が一つのところで集まれるような、何かいいものはないかということで、桜とカエデをそれぞれ1,000本ずつ植えました。その中の何本かがフユザクラとして咲き始め、2、3年のうちにはそれがだんだんと多くなってまいりまして、フユザクラという一つの名勝にこれを位置づけようということで、昭和12年に名勝天然記念物三波川ザクラとして国の文化財に指定を頂きました。平成3年には群馬県の桜山森林公園として、整備が図られ現在7,000本の桜が10月下旬から12月に渡ってちらほらと咲き始めます。この桜は寒いときですから、下のほうから徐々に咲いてだんだんと上のほうのこずえのほうへ咲いていきます。しかし北風が吹いてまいりますと、全部咲ききれないものがあります。それは今現在咲いています。標高が約600メートルくらいあるところですので、若干市街よりも遅くなって今年はいよいよ10日～12、3日のころが満開だといわれています。12月に咲く桜としては、全国ではおそらく私の町以外にはなかるかなと思います。桜の花そのものは梅の花と同じようなものですが、12月にこのような桜が咲いて、その下で酒盛りをするというのはまた一興でありますし、これと共に紅葉と一緒に見られるというのも、この時期以外にはないかなどこのように思っております。

今この桜をモチーフにして、あるいはまたこの桜を地域のシンボルとして、一つのよりどころとして、町民全体が桜とともに美しい自然をより一層飾っていかうということで、一生懸命努力をしております。そして若干交通の便が悪いものですから、そのアクセスの整備をいま図っています。

また私の町には三波石という、皆さん方ご存じかも知れませんが、素晴らしい奇石があります。庭石にして珍重されております。そういうところもすぐ側でございます。東京から約1時間半くらいの所でございます。どうぞ一度お出でを頂きたいと思えます。心からお待ちを申し上げております。

〔篠田〕 本当に桜というのは、いろいろな種類があるのだなと思えました。今ビデオを見てみますと、オーバーを着て桜を見ていらっしやると思ったらワイシャツ1枚で、よほど熱燗なんかを飲んでいらしたのか分かりませんが、うらやましいなと思ったわけです。鬼石町さんも実は第1回からの常連でございました。それでは北本市の発表です。

〔埼玉県北本市・新井〕 北本市は市内にたいへん雑木林が多く残っておりますことから、緑に囲まれた健康な文化都市として、桜や四季の花々が咲き誇る静かな自然と都市が共生したまちづくりに向けまして、施策を展開しているところでございます。

本市の桜に関する取り決めですが、ふるさと創生事業の一環として、市民に広く意見・提案を頂きまして、桜と歴史の郷づくり事業を進めておるところです。この事業が選定された理由といたしまして、北本市に天然記念物に指定されました、樹齢約800年の日本五大桜の一つでありま

す、石戸蒲ザクラがあるわけでありませう。蒲ザクラは源頼朝の弟、蒲冠者範頼に関係した伝説が伝わっているものです。蒲冠者範頼の蒲を取りまして蒲ザクラと命名されたというように伝えられています。またこの蒲ザクラに因みましたが関係から、大変さくらを植える運動が盛んになり、荒川沿いに樹齢40年ほどのさくらが昭和52年に植えられまして、市民に大変愛され200本近くの桜並木となっています。

また荒川沿いに高尾さくら公園というのが作られております。ここに約11種180本ほどのさくらが植栽されましたが、このさくらは北本に移られた子供たちが、お父さんお母さんのふるさとに、さくらの町の北本にぜひ苗木を送ってほしいということで、植えられたさくら公園でございます。

これらのさくらをまた中心といたしまして、これからも蒲ザクラと一緒に、さくらの町を「感動桜国北本」ということで、イメージアップを図っていきたくて考えてます。「感動桜国、さくらの国」ということでございます。私達の町はこれからのさくらの町ということで、建設に向けていま進めておるところです。

〔篠田〕 東京から45キロ圏内で、こういう雑木林があったり、トンボが飛んだりという、大変にうらやましくて「そちらのほうに引っ越したいな」という人もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。それでは同じく埼玉県の幸手市の発表です。

〔埼玉県幸手市・増田〕 幸手市は幸せの手と書き、私達はハッピー・ハンド・シティ、幸手と呼んでいます。それでは幸手市のさくらについてお話をさせて頂きたいと思っております。

まず最初は幸手市の権現堂堤を紹介いたします。権現堂堤は1キロに渡り1,000本のさくらが続き、4月のさくらまつりには毎年50万人以上の方々に、お越し頂いております。さくらが堤を覆い、さくらのトンネルを作る様子は実に美しく、周辺には菜の花も咲きみだれ春を満喫するには最高の場所です。会場の皆さんもぜひ幸手市にお越し下さい。心からお待ちをしております。北千住から東武線で45分、幸手駅で下車し徒歩で20分の距離ですので、日帰りでも十分楽しんで頂けると思っております。さくらまつりの期間中は「さくらマラソン大会」や「ミスさくらコンテスト」などさまざまな催しも行われ、さくらのまち幸手を広くPRしております。

権現堂堤は今から400年前に築かれ、利根川などの水害から江戸の町を守ってきました。大正9年に約16キロに渡りさくらが植えられましたが、戦中から戦後にかけて伐採されてしまい、現在のさくらは昭和24年、地域住民を中心に植えられたものであります。現在はボランティアの方による、権現堂桜堤保存会が組織され、清掃活動などを行っています。幸手市では平成6年から「さくらの中にまちがある」をキャッチフレーズに、さくら10万本植栽運動を実施しています。この運動では市内のあらゆるところで、さくらが楽しめるよう積極的にたくさんのさくらを植栽をしています。

また、まつりの期間中は、さくらをライトアップし夜桜見物が楽しめます。さくらの古木を保存する桜

保存樹木制度や、出生や婚姻をされた方に、鉢植え桜を贈るメモリアル桜などの活動を展開しているほか、特産品の開発も進めています。これからも幸手市はさくらによるまちづくりを積極的に進め、全国に自慢できる「さくらのまち幸手」を目指して頑張りたいと思っております。幸手市のさくらは今が満開であります。皆さんもぜひハッピー・ハンド・シティ、幸手市のさくらを見に来て下さい。心から歓迎いたします。

〔篠田〕 この場を借りてのPRでございました。それでは前回サミットをお引き受け頂きました、上越市の発表です。

〔新潟県上越市・藤原〕 昨年度は当市の高田公園でサミットを開催いたしました。大勢の方々がお集まり頂き、改めて御礼申し上げます。

先程はジェームス三木さんのご講演を興味深く拝聴させて頂きました。NHK大河ドラマ「徳川慶喜」の脚本を書かれていらっしゃいますが、当市も徳川家と大変にゆかりの深い地です。ソメイヨシノを中心に約3,400本のさくらが植えられております高田公園は、高田城の城跡をそっくり公園としております。初代の城主は、徳川家康の六男松平忠輝公であり、また明治維新までの130年間にわたり、一番長く高田藩を治めた榊原家は、徳川四天王と称されました康政公を藩祖としておられます。さらに榊原家16代当主政春様の奥様喜佐子様は、徳川慶喜のお孫様に当たられます。このように徳川家と深いゆかりを持ちましたのは、地理的に古くから北陸地方へ通じる交通の要衝であったことが挙げられます。お堀に映えるさくらと三重櫓の景観は素晴らしく、三大夜桜の一つと語り継がれており、またさくらの名選100にも選ばれており、全国的に有名なさくらであります。

高田公園のさくらは明治41年に陸軍第13師団が設置され、この入場を祝い寄付が集められ、翌明治42年3月に2,200本を植樹したのが始まりになりました。その後大正6年に市民の花見が許され、大正14年に保勝会が出来ました。これは昭和2年7月に、観光協会に改称しております。翌15年に第1回の観桜会が、開かれております。現在市の木でありますさくらを、1万本のさくらの植樹に向けて頑張っております。1,600本のぼんぼり、300店を超える露店が立ち並び、県内はもとより遠く県外から毎年100万人を超える、花見客が訪れております。昨日4日から観桜会が開かれておりますが、江戸時代の町並みを楽しむコーナーや松平忠輝・五郎八姫の婚礼パレードを再現した「越後高田75万石時代まつり」を開催しております。ぜひ皆様方一度お越し頂き、江戸情緒を満喫して頂ければと思っております。

最後に上越市は、昨年度環境基本条例を制定し、京都市での地球温暖化問題防止会議に参加するなど、環境問題に積極的に取り組んできたことが広く認められ、2月24日にISO14001を認証取得することができました。去る4月2日に地球環境大賞の優秀地方自治体賞を受賞して参りましたので、会場の皆様にもご報告申し上げたいと思っております。環境に優しいまちづくりの観点からも

さくらを大切に、さくらと親しんでいきたいと考えております。

【篠田】 さくらだけで100万人の観光客が来るというのは、すごいこととおそらく「非常にうらやましいな」と思っている、ここのご参加の自治体だろうと思います。それでは同じく新潟県の加治川村の発表です。

【新潟県加治川村・秦野】 まだ村長になってから1年も経っておりませんので、未熟者でございます。私達の村は、日本一小さな櫛形の山脈という、山裾にある村でございます。標高399メートル大嶺山というさくらの原生林は山桜で、約40種位のさくらが1,000本ほど自生しております。しかも数百年の歳月を経ておりまして、昭和9年に国の天然記念物に指定を頂いております。この国の天然記念物の指定を受けました山裾に、村で5.2ヘクタールの公園を作りまして、世界のさくら109種類300本、四季に渡る開花を目指して植栽を進めております。ゆくゆくは裏日本随一のさくら見本園に、仕立てる予定であります。

かつて私達の村は堤十里加治川のさくらといわれまして、日本一のさくらの名所としてお認め頂いたところでございます。41年42年に羽越大水害により、そのさくらは全部切られました。それを復興いたすべく建設省の力をお借り頂きまして、本村と新発田市関係4市町村でさくらを再度植えて、往年のさくらの名声をいま一度ということで、さくらを1本2万円で募集し里親制度をいたしました。そして全国からいろいろ寄付を頂きまして、個人で220名、法人で41事業所、県外からは42名の方々の力を頂きまして、さくらの植栽を進めております。時間になりましたので、どうか新潟にお越しの節はお出で下さい。新幹線で早くきますからお待ちしております。

#### ■フリーディスカッション#1

【篠田】 司会がいらないくらいに、ちゃんと時間を守って頂きまして、本当に恐縮いたしております。さくらの、国指定の天然記念物というのは、確か38くらいあるのだと思うのですが、47都道府県で1番多いところは新潟が五つ、それから岐阜が五つということで、新潟というのは大変さくらには、非常に恵まれているという県のような感じです。

さて前半の九つの自治体の発表が一応ひとあたり終わったわけですから、ここでフリーディスカッションの時間に入ります。今までお聞きになりまして、こちらのサミットに参加していらっしゃいます自治体の、それぞれの首長さんの方々にご質問等がございましたら出して頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。なければコーディネーターのほうから、口をきりまして誠に申し訳ないのですが、先程日立の市長さんが日立市のさくらについて、三つの段階を踏んで今日に到ったという話がありました。3段階目が今日であるということで、ここ数年、市民運動の動きが非常に盛んになったという話がありました。「その前にはほとんどそういうことがなかった。さくらの手当も十分ではな

かった」というようなお話がございました。何がきっかけでそういう市民運動がおき、あるいは目覚めてきたのか。そのきっかけについて、お話頂ければと思います。

【茨城県日立市・飯山】 そうですね。もともと日立市民というのは、非常にいろいろな分野での市民活動は活発であったと思っております。福祉、教育、文化、体育、特に目立つのは福祉の分野で相当長いボランティア活動としての、市民参加の目立った動きがございます。しかし、さくらをテーマにして、さくらを素材にしてまちづくりうんぬんという話は、しばらく出なかったと思っております。「どうしてそういう動きになったのか」ということでございますが、私もよく分かりませんが、一つには日立というまちは、東には24キロの長い海岸線をもっております。それから阿武隈山脈の、緑の深い山並みをもっております。そういった海とか山について、まちづくりにつなげて何かをしようという発想が、極めて薄かったということだろうと思っております。一口に日立は鉾工業都市ということで、工業出荷額も相当高いものがございますが、ご多分にもれず現在非常に元気がありません。一応そのことと別にいたしまして、市民も行政も数年前から今まで、とかく関心の薄かった海や山そして長い歴史をもつさくらについて、これをまちづくりの一つの切り口として取り上げていこうではないかという動きが出てきたということです。なぜその動きが出てきたかということについては、私もよく分かりませんが、とにかくそういう市民の声が高まってきたということだろうと思っております。私自身も市長としてそういう提案を、機会があるごとに市民に申し上げてきました。

それから一番大きな原因は、平成3年に日立市内の国有林の約250ヘクタールが焼けてしまいました。その250ヘクタールのうち150ヘクタールを、市で国から買わせて頂きまして、これを市民の森公園にいま造成をしておりますが、これも一つのきっかけではなかったかと思っております。何にもまして今日もお見えになっておりますが、立場を超えて市民の皆さん方が、取り敢えずはさくらを素材にして、まちづくりに市民参加でやっっていこうという、そういう動きが非常に活発になったということだと思っております。

【篠田】 ありがとうございます。一応かわきりにご質問をさせてもらったのですが、どうでしょうか。こちらの壇上の皆さん方で、特にないでしょうか。それでは会場のほうから、どなたか質問がございましたら、お手を挙げて頂きたいと思っておりますがいらっしゃいますか。

【参加者】 ではお尋ねしたいと思います。群馬県鬼石町のフユザクラということですが、これはさくらの種類はどういう種類なのでしょう。期間が真冬から春ということなので、それに対する管理が大変だろうと思っておりますが、その管理をどのようにしているのか。それと行政もそれに携わっているのか、ということをお聞きしたいのですが。

〔群馬県鬼石町・荒川〕 さくらの種類、これはフユザクラという種類ということです。専門の樹医ではありませんが、さくら守の方がさくらの苗木を仕立てて、フユザクラをして現在は補植をしています。もともとはヨシノサクラの1種だろうと、文献ではなっています。

それから管理でございますが、先程申し上げましたようにいま群馬県の森林公園に指定されましたので、県のほうの委託費と町の駐車料金を一部入れまして、町に管理人を置きましてずっと管理をしております。管理が非常に難しいということでございますが、私の町のフユザクラは、48年にほとんど全山が火災で焼けた、その後に植え継いだものです。今ちょうど30年くらい経ちまして、樹勢が一番いいところということで、管理そのものはそれほど大きな手は掛からないのです。しかしやはり肥料や草刈りそれからテングス病とか、そういうものについては若干あるようで、それらの駆除をしております。行政でも管理人を置き、一つの課が係を設けて専門職がいて、その管理を指導しています。毎年、毎年保存会の120から130の方が、この山の管理人とともに、先程も申し上げましたが三波川村長さんの地元の者が、その管理を引き受けてやって頂いております。村全体でやって頂いておりますので「ボランティアの仕事が大分年間多い」ということで最近ではこぼしています。お年寄りが多いものですから大変なようです。いずれにいたしましても、そういうようなかたちでいま管理をして、皆さんに見ていただけるように努力をしております。

〔篠田〕 ありがとうございます。今の答でよろしいでしょうか。それではもうお一方くらい、いらっしやいませんか。

〔参加者〕 質問ではございませんが、ただいまの17市町村の代表の皆さんから、大変貴重なお話を拝聴いたしまして、誠にありがとうございました。私どもは福島県三春町でございまして、日本三大桜の一つでございます、三春滝ザクラ所在の三春さくらの会のもどもです。3名初めて出席させて頂きました。三春滝ザクラのPRを含めまして、一つ17市町村の中に一口加えて頂ければ、幸いだと思っておりますがいかがでしょうか。

〔篠田〕 ただいまそういうようなご提案がございました。最後の時間でまたそういう点について諮らせてもらいますので、取り敢えず今の時間はそれをお聞きするだけにして最後にまたその点は取り上げてみたいと思います。ほかにはどうでしょうか。あとございますか。どうぞ。

〔参加者〕 静内町の方にお聞きしたいのですが、ほとんどのさくらがエゾヤマザクラということでしたが、ソメイヨシノと違う風情のある桜並木ではないかと思ひまして、いまご紹介された中でぜひ見てみたいさくらの一つだったのです。それでこの時期に当地を訪れる観光客というのは、どのくらいの人数にのぼるのかということ。そのさくらを町づくりにどのように活用されているかという、2点を

お聞きしたいと思います。

〔北海道静内町・増本〕 うちの町は大体期間中は、25万から多い時で27万という数字があります。1週間の期間ですので、大体1日5万人くらい来られると、もうパンク状態になります。というのはさくらの木の下に車を入れて花見ができる、バーベキューやジンギスカンができるということで、場所が広いために逆にまたそういう弊害が出るということでございます。しかしいずれにしてもこのさくらが町おこしの起爆剤ということです。主体がエゾヤマザクラということになっておりますが、このエゾヤマザクラの中でもいろいろ花の時期の早い遅いの、それから色の白い赤いのといろいろございます。そういう中で色のあざやかなそして早咲きのものを、バイオでいま試験栽培をしております。これが成功するとある程度均一性の取れた、桜の植栽が継続していけるかなと考えております。本当に短い期間ですが、やはり人口23,500の町ですので、大勢のお客さんに来てもらうことが直接町おこしにつながる。

後は特産品の開発。今日もこの13階でやっておりました押し花。これは私ども平成8年に、初めて静内で頂きました。全国的に大変広がっているということで、これも私どもの町にすると、一つの町おこしの起爆剤になったかなというように考えております。

〔篠田〕 よろしいですか。それではお一方、そちらの男性いかがですか。

〔参加者〕 さくらの管理についてお聞きしたいのです。というのは一番最後の新潟県の場合にさくらを補植するために、寄付金を得ているというようなこともありました。愛知などですとやはり昔から「さくら切るばか、梅切らぬばか」ということで、とかくさくらの木を切ることになるわけです。そうしますと何か補植しなければならない。そういう点について新潟ですと、何かさくらの木を植える費用として、2万円ばかりの寄付をという話があったのですが、他の地域ではいかがなのでしょう。そのような補充をするのは、やはり行政の費用でやっているのでしょうか。あるいはその地元だとか、クラブ組織のような民間のものを作って、そういうものが寄付をして補植するというところをやっているのでしょうか。その点をお尋ねしたいのですが。

〔篠田〕 それでは私のほうからスポンサーあるいは里親そういうかたちで、住民の皆さんからご協力を頂いている自治体について「自分のところはそうだ」というところはちょっとお手を挙げて頂けますか。五つのような。くわしくは時間が切迫してきましたので、また後半の段階でご質問頂きます。一応17のうち五つくらいが、スポンサーといったものをお考えだということです。それではまだまだご質問をされたいという方が、いらっしやると思いますが、後半のほうに移りたいと思います。それではまず高遠町の発表です。

■各町の紹介#2(高遠町・吉野町・西伯町・木次町・大村市・水上村・北郷町・北区)

〔長野県高遠町・丸山〕 この高遠町ですが長い間南信濃の中心として栄えてきた町でございます。現在は人口が7,600人くらいということで、大変過疎化の進んでいる町でございます。高遠町といえば4月になりますと、タカトオコヒガンが爛漫と咲き誇りまして、訪れる人々の心をいやしているところなんです。そういうかたちの中でこのさくらは「天下第一のさくら」といわれています。ちなみにこの期間中だけで、約40万人の方が訪れます。高遠町の観光人口は約80万人でございますので、1ヵ月に半分がここへ来てしまうという中で、大変交通渋滞、トイレの問題等が困っているというのが現状です。

高遠町ですが戦国の昔には武田の拠点として、織田氏の大軍に立ち向かった仁科五郎盛信の奮戦の地であるとともに、後に会津藩主となった保科正之の少年期の就学地でもあります。また江戸下屋敷が、現在の新宿御苑になっていることで知られているように、徳川譜代大名内藤家八代の居城として長い歴史を伝えております。あいにく明治4年の廃藩により城は取り壊されたわけですが、有志が近くのところにあったさくらの植樹をしたことから、高遠城址公園としての整備が始まったということでございます。このタカトオコヒガンザクラの樹林ですが、昭和35年に県の天然記念物に指定をされました。またさくら100選にも選ばれております。現在100年以上の古木が20本。50年以上のものが500本。それから30年以上のものが300本あり、全体では1,500本のさくらがこの園内に植えられています。このさくらですが花が小粒で、ピンク色をしているというのが大きな特徴です。

そんな中で高遠町ではさくらからの町づくりを拡大をして、住民参加の町づくりの展開を図っております。通年観光を目指す中で平成元年から、花の丘公園の整備を始めまして、現在、11ヘクタールの園内に、タカトオコヒガン、八重桜、ヤマザクラを中心としたさくらが植栽されています。これから私達の町では花が咲くわけですが、10日ころに咲き始めて15日ころが見ごろかなと思っているところなんです。東京から約2時間半くらいで参られますので、ぜひお出でを頂きたいと思っております。町では入場料を頂いております。大人1人400円です。一つよろしくお願いをしたいと思っております。

〔篠田〕 高遠町さんはやはり第1回のサミットから、ずっと参加をしていらっやいまして、非常にさくらあるいは花ということで一生懸命まちづくりをやっていらっやるといような町でございます。それでは次に吉野町の発表です。

〔奈良県吉野町・福井〕 奈良県の吉野町でございます。昨日の報告によりますと吉野山のさくらの下1,000本が八分、中1,000本が五分、奥1,000本がつぼみがふくらむという状況でございます。これから東京からもお越しになる方もたくさんいらっやるかと思っておりますが、できるだけ皆さん

方がお越しになる時には、さくらが咲いていたいものだと思います。

いま画面には雪が映りました。さくらではありません(笑)。吉野のさくらの歴史を紹介をしようと思ったら、雪の映像を出さなければいけないということで、私は無理に雪を撮らせました。私どものさくらが、ジェームス三木さんは「文献はきらいだ」とおっしゃっていましたが(笑)、文献上にあらわれてくるのは古今集からです。その後新古今の時代になって、西行が吉野のさくらを全国に宣揚しました。その後400年程経って秀吉が大きな花見の宴をもってくれましたので、吉野のさくらの花見というのが定着しました。そして現代にいろいろなかたちで、さくらがつながってきているわけです。ですから簡単にいいますと、吉野のさくらは大体1,000年くらいの歴史といえるのです。

その前にも歴史がございまして、万葉のころには吉野は雪の名所だったのです。雪、水、川、鳥というものをたくさん詠んでくれています。さくらを詠んだ万葉歌は吉野では一つもない。なんで吉野がさくらの名所ではなく、雪の名所から始まったのだろうということを私も考えました。これからは文献に頼らず頭の中でのいうのですが、雪の名所というのは、雪がいっぱい降るところが雪の名所になるわけがない。吉野はこの17の中でもずーっと南のほうですから、雪が降るといことは、年のうちの1日か2日です。そういうところが名所になってくるのでしょ。さくらについても同じことがいえると思います。1日か2日の素晴らしいさくらを求めて、年中待ち続けるというのが、さくらの名所のいわれではないでしょうか。これだけいっただけで、予定時間がきてしまいましたけれど(笑)。

地図を見ますと私どもは近畿圏から来ていますが、近畿圏から来たのが私だけなので、一言だけソメイヨシノについていわせて頂きたいと思っております。ソメイヨシノというのはヨシノという名前が付いていますが、吉野のさくらではありません。江戸時代に東京の染井村の植木屋さんが作った改良品種です。おそらく江戸時代になって、ソメイヨシノという素晴らしい花が出来た。その時江戸にいた人は、どんなことを考えたでしょう。それまで関西の文化が日本の文化であった。東京の文化というもの全国に広めるために「ソメイヨシノを全国に広めたのではないかな」ということを今考えております。ご意見を頂きたいと思っております。

〔篠田〕 文献によらないところに、本当に素晴らしい考えが生まれて、非常に耳を傾けたという感じでした。それでは次に鳥取県西伯町の発表です。

〔鳥取県西伯町・中川〕 鳥取県の西伯町から参りました。今日はわが町のさくらを守り育ててくれるボランティア団体「河畔倶楽部」の代表2名とともに参加をさせて頂きました。

西伯町の中心部に戦国時代の面影を残す法勝寺城址があります。これに続く河川堤防約3キロメートルを法勝寺公園と呼び、さくらの名所として知られております。ここ法勝寺宿は藩政時代から明治・大正時代にわたり交通の要所として栄えたところでもあります。このころ浪速からいろいろの文化が流入したと思われませんが、そのうちいくつかが根づき法勝寺歌舞伎や法勝寺一式飾りが今日

に伝承されています。今日はその一つ法勝寺一式飾りのみにつきましてお話をさせていただきます。

法勝寺一式飾りは江戸時代の末期に始まったといわれ、全国的にも数少ない素朴な民衆芸術として伝承され、さくらまつりの人気行事として近郊近在からたくさんの観光客が訪れ賑わいます。今年から4月の第2土曜日、日曜日を公開日とし来訪者の便宜を図ることとしたところです。法勝寺一式飾りの飾りものに用いる素材は一式に限定したのですが、一式の意味を例えば正月用品一式とか道具一式のように広義に解釈したものや、漆器、漆ものですがこの陶器一式、竹製品一式のごとく狭義に解釈をし、その素材をその範囲で求め作品を作るという方式の二通りがあります。飾りものの主題は干支に因んだもの、時局の話題に上った人物、歌舞伎もの、仏像、お伽話の主人公、建造物など様々ですが、各組で秘密裏に制作されます。制作の期間は簡単なもので2日くらい、大作で7日を要するというので、のべ人員も多数にのぼります。制作に要する素材は主として各戸の備品を持ち寄り、大小形状詳細等が不揃いなものの中から、工夫しながら創作するものがございます。そして当日の正午、さくらの花の舞う街道筋の民家、表戸をいっせいに開放しまして会が始まります。西伯町は湖とさくらと一式飾りの町としてまちづくりに努めているところですが、この一式飾りも年々盛んになるようございまして、大変よろこんでいるところです。これが一式飾りです。例えば右上のものですが、これは舞妓でして漆器一式を用いてつくりました飾りものです。

〔篠田〕 それでは次に第1回のサミットが行われた島根県の本次町の紹介をお願いします。

〔島根県本次町・小村〕 島根県本次町は島根県の東部にありまして、県都松江市から40キロメートル、そして出雲大社から同じく約40キロメートルの中山間地に位置いたしております町でございます。町のシンボルとなっています斐伊川堤防の桜並木ですが、これは明治の終わりころから町民の手によって植えられまして、本格的には昭和2年の昭和天皇の御大典記念事業として、町内会等が堤防の両側に植栽をいたしました。当時の小学生達はさくらの木に、自分の名前を書いた名札を付けて育ててきたのです。その後昭和44年にはさくらを町の花木に指定しますとともに「さくらの会」が結成されまして、以来住民によりますさくらの愛護活動が活発になってまいりました。そして昭和62年に本次町総合振興計画「チェリーブラン」といっていますが、これを策定いたしました。そのシンボル事業として日本一のさくらのまちづくりを掲げ、20世紀中にはさくらの本数を5万本にまで増やそうということを目指して各種の施策を進めてまいりました。ふるさと創生事業にも日本一のさくらの町づくり事業を選定いたして、積極的に植栽を進める一方で、さくらの専門職としてさくら守を配置して、本格的に保育管理にあたってきたわけです。また苗木の無料配布、山桜の町行分収造林制度、補助造林制度を創設し、全町さくら植栽運動を展開してきたところです。

かつてさくらの神様といわれました、今は故人でございますが笹部新太郎先生が、開発されました

笹部桜の苗木を、平成5年から8年にかけて500本譲り受けいたしました。これを将来は木次のさくらとしてブランド化を図っていくために、いま接ぎ木やバイオによって苗の育成に取り組んでいるところです。現在町内のさくらは45,500本ほどございますが、今後も引き続き5万本達成に向け運動を進める考えでございます。こうした植栽運動を進める一方で、さくらに関する特産品の開発も進んでまいりました。平成8年に開発をしました「さくら麺」ですが、さくらの花をうどんに練りこみ、かすかにさくらの香りを漂わせ、贈答品とか土産物として大変好評を得ているところでございます。

また今年には本次町がさくらのまちづくりに取り組んでから10年になります。これを記念して町民参加の創作劇「ひと花の吹雪」の上演を計画しまして、4月12日の上演に向け猛練習を重ねているところです。こうした文化的な事業を取り入れまして、総合的な角度から日本一のさくらのまちづくりを、一層今後進めてまいりたいと思っております。

〔篠田〕 出雲といいますが出雲そばということで、あれは真っ黒のそばなのですが、さくら麺となりますとまた出雲そばと違った味があるのかなどこのように思いました。それでは九州にいきまして大村市の発表です。

〔長崎県大村市・坂口〕 わが町大村市は長崎の中央部に位置し、海上空港があるという町で、花と歴史の町というキャッチフレーズをつけています。花はさくらや花菖蒲を、歴史は1,000年の歴史が息づく城下町であるということを表わしています。

現在大村を代表するさくらは、市街地中心部の、昔、城主の居城であった玖島城跡にあり、現在大村公園として約2,000本のさくらが植栽されております。この大村公園は一昨日の朝のテレビ「旅サラダ」で、ラッシャー板前さんがレポーターとして紹介されておりましたが、その模様が全国に生中継されています。天然記念物のオオムラザクラは八重桜の二段咲きで、花卉の総数が60枚から200枚もある大変優雅な花で、里桜中の名花といわれております。この大村公園には他にもつつじや、10万株、30万本といわれる花菖蒲が植栽されており、さくらを初めとする花の名所として、県内をはじめ県外からも観光客が訪れ、本市にとっては中心的な観光施設でもあります。大村公園のさくらは開花が例年になく遅く大変やきもきしておりましたが、この北区と同じ今が満開となっております。

一昨日はその昔4人の天正遣欧少年使節が立ち寄り、それが縁で姉妹都市を結んだポルトガルのシントラ市から女性の市長さんをはじめとする親善訪問団が現在訪れていらっしゃいます。シントラ市は世界遺産にも選ばれた美しい都市です。

私達の町のさくらはルーツをたどりますと、現在市内の南北を縦断する国道34号はその昔長崎街道でありました。この街道沿いにはたくさんのさくらが植えられ、その美しさは当時の旅行者の記録に残されているという歴史があります。この長崎街道は鎖国日本の唯一の窓口であった長崎と江

戸を結ぶ重要な街道であったということで、この貿易によって長崎に上がった外国の文化はこの街道を通して江戸へ伝わったと考えられます。この長崎の港を開いたのが当時の大村の領主であった大村純忠であり、長崎の港を開き西洋文化をいち早く取り入れ日本の文明開化に大きく貢献していると思われます。このような背景からわが町のさくらは歴史的にも文化的にも地域の発展に大きな関わりがあったと考えられます。さくらは日本の心の象徴であり、私達の町の歴史と文化の創造に大きく関わっておりこれを守り育てていくことにより歴史文化の伝承と人々の心と市民の暮らしにゆとりとるおいのある歴史を生かしたまちづくりを目指したいと考えております。

〔篠田〕 大村市さんは、さくらに始まってずっと3ヵ月間花が咲くという工夫をしているということで、大変やり方としておもしろいなどと思っております。それでは次に熊本県水上村の発表です。

〔熊本県水上村・原田〕 熊本県の南東部の大変な山の中からやってまいりました。38年前の昭和35年に村の中心地に市房ダムが完成しましたが、そのおりに水上村は山ばかりで何もなくて、ここだからこの市房ダムをさくらの名所にしようということで、始まったわけなんです。10年後の昭和47年からさくらまつりを始めておりましたが、昭和59年に当時熊本県知事でありました細川護熙氏による「活力と個性ある熊本日本一づくり運動」が始まり、他郷村2箇所とともに第1番目に本村を指定して頂き、ダム周辺の1万本桜を活かした、日本一のさくらの里づくりが始まりました。ここにご列席の方々には大変おもしろい話で、大変恐縮しておりますが、本数規模とも本当に日本一にはなりません、さくらを起爆剤にしてむらづくりをするというようなことです。

その中でさくらのシンポジウムをおこなってまして、その後さくら2万本を植栽しています。先程新潟県の加治川村長さんが、全世界のさくらを植栽しているということでございますが、私達の村は全国のさくらの種類の中から、本村の気候に合う約100種類250本を植栽して桜園鑑園を作っています。それからさくらの木を1万円で購入頂き、本村に植栽して頂くさくらのオーナー制度1,300口程お申し込みがありまして、オーナーの森を作りましたが、ここにはピンク色の濃い八重の花で4月下旬ごろに咲き、花の期間が長い関山というさくらを植栽しています。いま申しました2万本のさくらは今後10年程度しなければ、立派なさくらにならないものと思っております。また桜まつりを盛大にするために、和太鼓の創作をして大変好評でございました。

当初植栽しましたさくらの木も35年を経過し、ところによっては樹勢の衰えも見え始めましたので、昨年「日本花の会」にお願いをしまして、樹木医による診断をして頂きましたが、密植のところがあり、間伐または移植が必要であること。土壌が悪いところがあり、土壌改良の必要があること。テングス病駆除は毎年実施しておりますが、徹底して行うことなどの提言を受け、これをさっそく取り入れ、後世に長く水上村のさくらを引き継いでいこうにしたいと思っております。

〔篠田〕 水上村は球磨川という川の、源にあるということです。われわれは球磨川というと、球磨焼酎なんていって焼酎のほうに頭がいかってしまうのですが、さくらも有名であるということです、皆さん方もよく覚えておいて頂きたいと思っております。

それでは次に宮崎県の北郷町の発表です。

〔宮崎県北郷町・植野〕 宮崎県北郷町は昭和34年に町政を施行したわけですが、北郷町は山林が多く80%を占めています。藩政時代から温暖な気候と雨に恵まれて、オビスギの職人による人工林地帯が形成され、オビスギの美林は絶景でございます。山林に囲まれた中山間地帯であります、宮崎県の中核都市に今回なったのですが、その宮崎市から30分程度の距離にあります。

北郷町では定住対策としまして昭和46年から企業の誘致に積極的に取り組み、昨年までに16社の企業を誘致しています。また地下800メートルから湧き出す51度の温泉を確保し、現在では三つの温泉で2種類の性質の異なる温泉を有し福祉施設2箇所、宿泊保養施設5箇所への温泉の供給や温泉付きコテージ等を一般に開放しています。平成6年には第3セクターを設立し、ゴルフ場とホテルの建設を行い、周辺のスポーツリクリエーション施設などの整備等を行いながら、雇用と観光の町をつくらせてまいりました。その結果現在北郷町を訪れて頂く方は、年間35万人程度となっております。

さて北郷町のさくらのまちづくりは昭和56年に始まり、町民運動として緑の山々を春の訪れを早く知らせしてくれるヤマザクラを基調にし、さくらの植栽運動を展開したのが始まりであります。さくらの植栽は自治公民館組織や企業などを始め、全町民の力で広場や空地事業場などに進めておりますが、特に町の中央にある標高350メートルのハナタテ高原では、一山を丸ごとさくらの山にしようとして現在まで約1万本のさくらを植栽しています。

強い風や台風などによりさくらの維持管理も大変ですが、一生懸命頑張っております。北郷町には銘木や有名な古木といったさくらがあるわけではありませんが、これから未来への遺産として残すための取り組みであり、いろいろな品種のさくらを植栽しており、1月から5月下旬まで各種のさくらが楽しめます。北郷町は情報、通信、交通網の整備などの着実な進展に加え、施工命令を待つばかりの東九州高速自動車のインターチェンジの建設計画など、21世紀に向けたインフラの整備が進められ、ますます地理的な立地条件が高まってまいります。機会がございましたら、ぜひ一度国定公園日南海岸、宮崎シーガイアなど盛りだくさんの施設を有する、宮崎の奥座敷北郷町にぜひお越し頂きたいと思っております。

〔篠田〕 北郷町さんも第1回のサミットからずっと常連で出席して頂いております。そ

れでは最後の役割を地元北区のほうから発表をお願いしたいと思います。

〔東京都北区・北本〕 それでは本日の最後となりました北区でございます。北区といいますと、まずなんといってもさくらの名所飛鳥山でございます。飛鳥山は 280 年ほど前に徳川八代将軍吉宗により、1,270 本のさくらの植栽が始められたのがその起源です。それから 10 年後に江戸庶民にさくらの名所ということで解放されたところでした。当時はちょうど享保の改革といわれた時で、今と同じように大変不況な時でしたから、吉宗が不況対策として植栽されたともいわれているわけです。その後明治時代に入りますと上野の山からの花見客が大変多かったということもありまして、当時は上野の山と比べて飛鳥山のほうが、おそらく東京でも花見客が一番多かったというようなことが記録に残っています。また大正時代から昭和 10 年代にかけては、上野の駅から臨時の花見列車が出たといわれるほどで、中には怪我人も出たというような記録も出ているほどでございます。なぜこのように飛鳥山が東京でのさくらの名所になったかと申しますと、江戸時代では上野の山は武士階級の花見の場所。いわゆる寛永寺の境内地ということもございまして、歌舞音曲は禁止されていた。夜間もだめだということで、庶民が花見に浮かれるというようなところではなかったということでした。この辺に吉宗が着目をされまして、そして飛鳥山では歌舞音曲はもちろん夜間も開放され、しかも仮装行列までが容認されていたということで、人気が出たというように思っております。

こうした飛鳥山でしたが、第 2 次世界大戦中に大変荒れてまいりまして、その対策として緑化が進められ王子駅寄りのほうにはスズカケが植えられたということがございまして、今では当時と比べまして 670 本ほどに減っています。私ども北区はこのさくらを昔の吉宗時代の 1,270 本に戻すように目指して、いま努力をさせて頂いているところです。

先程さくら守の話が出ましたが、私どもも荒川土手で先日 29 日には対岸の川口市沿川の地元のさくら守の皆さん方いわゆる「荒川さくらの会」の皆さん方によりまして 106 本ほど植栽をさせて頂いたところでした。

## ■フリーディスカッション#2

〔篠田〕 ジェームス三木さんがお帰りになりましたので、吉宗で最後までやって頂きました。それでは後半の八つの自治体からの発表が終わったわけです。フリーディスカッションに入りたいと思いますので、まず壇上の皆さんで他の自治体の発表に対し、ご質問等がございましたらよろしくお願いいたしたいと思っております。どなたかいらっしゃいませんか。

〔東京都北区・北本〕 今の続きになりますが、私どもの北区の経験から申しますと、さくらというのはどうしても補植をしていかないと、途中で中断してしまうとこれを戻すというのはなかなか大変でございます。飛鳥山の例で申し上げますと、スズカケを植栽して今 30 年経ちますと目通りが 1

メートル以上とられる。これを他に移植するということになると、私どもは甘楽町が友好都市ですから、あそこのスズカケの森公園等にもらってもらおうということで、移植をすることにいたしました。28 本で 1,200 万円かかった。1 本あたり 48 万円くらいかかるわけです。これは買うよりも高いようなもので、大変なことになります。いま緑化ということが叫ばれているおりますので、これを切るわけにはまいりません。それでどうしてもさくらというのはこれは年々補植するなりして、柴田町のお話もございましたが 50 本なら 50 本というものを植えていくという努力が、続けられなければならないということから学ばせて頂いた北区でございます。

〔篠田〕 ありがとうございます。拍手があるようです。(笑)その他にございますか。壇上ではいらっしゃらないようなので、聴衆の皆さんのほうから、ご質問等がございましたら、挙手の上でよろしくお願いいたいと思っておりますが、いらっしゃいますか。

〔参加者〕 17 の地方自治体から参加の皆さんご苦労様でございます。私からちょっと地元の区長さんに要望、質問をしたいのです。というのは今日サミットに参加をさせて頂きまして、各地方自治体でさくらを植樹し保存し、それを本当にもっと増やしていこうということで努力している状況を、今日参加された皆様のお話を聞いて大変勉強になりました。

都心の中で北本区長さんもいわれていますが、植樹をしていくには大変金がかかるわけなのですが、どうも今の区長さんのお話の吉宗が、飛鳥山に植えた 1,270 本を目指すということでは私は少ないのではないかと。もっと荒川堤などにご承知のようにいま荒川でも、先程北本区長さんがおっしゃったように今年で 106 本植えました。まだ引き続き浮間から北区の場合には幸いにして、ずーっと荒川河川敷があるわけですから、そこを今日参加された地方自治体の皆さま方の教訓に学んで、もっと増やしていく運動をぜひ提唱して頂きたいと思うのですがいかがなものでしょうか。1,270 を当面復活するだけではなく、もう少し増やしていくということを、第 10 回のさくらサミットにふさわしい展望をもってやって頂ければと強くお願いいたいのですが、その点についてご答弁をお願いします。

〔篠田〕 大変に格調の高いご質問がございまして、明快な答弁をお願いします。

〔東京都北区・北本〕 お答えをさせて頂きます。先程申し上げましたように飛鳥山には昔の吉宗時代の 1,270 本を目指してまいりたい。現在 670 本ですからこれは一つの目標として持ちたいということでございます。そして北区全体としましては、先程申し上げたように荒川土手、これは「日本さくらの会」の皆さん方がさくら守として、秩父から東京湾口のほうまでのこの間に 50,000 本を植えて、往時の荒川五色ざくらといわれたようなものの復興を目指していきたい。そしてアメリカのポトマック河畔に、このさくらを贈ったというようなことにちなんで、ぜひともこれを復興したいということで



ございます。私ども北区といたしましても、こういった団体の皆さんとともに協力する中で、そういったことの実現が出来ますように努力をし続けてまいりたいと思っております。

〔篠田〕 その他にご質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。

〔参加者〕 北区自治会連合会の会長を務めさせて頂いております金田と申します。本日は全国16都市の市長さん町長さん、大変お忙しいところ遠路わざわざ当北区にご来賓を頂きまして、住民に成り代わりまして厚く御礼申し上げますとともに、歓迎を申し上げる次第でございます。北本区長さんにちょっとお伺いをいたします。3月27日に飛鳥山の三つの博物館がめでたくオープンをいたしまして、区民は一大文化ゾーンが出来たということで大変喜んでいられるわけですが、区長さんからいろいろお話がございましたので、私が質問しようと思ったことももうご答弁されているようです。飛鳥山公園も私も午前中に行ってきたのですが、今日は天気もよかったせいで大変な人出になっておりました。そこで飛鳥山公園は吉宗公以来の歴史があるわけですが、さらにさくらの植栽をされまして、都内屈指のさくらの名所にして頂きたいということと、この飛鳥山公園は大変便利のいいところがございますので、将来どのような公園づくりを目指していらっしゃるのかということをご質問をいたします。

〔東京都北区・北本〕 お答えをさせていただきます。飛鳥山公園全体の面積は71,366㎡ということで、現在の整備は第2期まで終わりました。全体が3期の工事ということを目指していますので、後1期工事が残っています。これはご案内の通り渋沢栄一さんにお住まい頂いて、昭和6年にあそこで亡くなったわけですが、その屋敷跡をこれから整備させて頂くということになってくるわけです。こういったものも3期工事として整備をさせて頂くということになっています。そしてさくらの名所としては、やはり当面は目指すところは吉宗の1,270本というものを目標にしたいと思っております。先程もふれましたがさくらというのは、一気に植えようとしたら、実は緑が非常に多くこの間増えてきていますので、これを移植した後にさくらを植えるということが必要となっています。そのためにはやはり年次計画を立てて、その中で当面は1,270本を植えさせて頂くという努力を続けていく中で、また往時の飛鳥山、さくらの名所ということにしたいと思っております。

これは余談になりますが、司馬遼太郎さんの『坂の上の雲』で見たのですが、明治11年ころの陸軍士官学校の第3期の入学試験問題で、作文に「飛鳥山ニ遊ブ」というのが出題された。当時の秋山好古は四国の人間で飛鳥山が分からなかった。それで漢文の読み下し調に「飛鳥、山ニ遊ブ」というように解して、作文の答案を書いたというようなことが書いてありました。したがって当時は明治の始めのことですが、東京民はみんな飛鳥山が桜の名所ということは十二分に承知をされていた。その当時の飛鳥山のようにぜひとも皆さんのご協力を頂いて、成し遂げていきたいというように

思っています。

〔篠田〕 ありがとうございます。それでは次の方どうぞ。

〔参加者〕 埼玉県のコノノでございます。私はさくらの花は大好きでして、昭和30年から去年までさくらの名所旧跡は見たつもりでいたのです。そしてこの間2週間前に東京中央郵便局に行きましたら「さくらサミット」というのがあるというポスターがあったのです。全然知らなかったもので「ああ、さくらサミットがあったのか。もしかしたら私がまだ行っていないところか、ここに出てくるかもしれない」というような期待を持って今日きました。それでご出席の17自治体の中で、私は8か所行っています。その他は行ってなくて、知らないというのもあったのです。ただ角館は行きたいと常に思っていたのですが、時期が4月の20日ころとか、連休にまたがるというのでなかなか行く機会がなかったのです。そして今年に行きたいと思っていたら、ちょうど角館の町長さんがいらっしゃっておりましたので、詳しいことを聞きたいと思っています。

私は今まで日本三大古木である、先程向こうでおっしゃった福島県の滝ザクラ、山梨県の神代ザクラ、岐阜根尾の薄墨ザクラを見てきました。すべて美しいのですがやはり時期によるなど、時期を1日2日外してしまうとだめだなということを感じたのは薄墨ザクラなのです。薄墨ザクラは私が行った時には、非常に時期がよくて「この3日間がいいのだ」といいました。さくらのまわりが黒でだんだん緑がかって、そういうふうになるのはさくらが散る少し前だということです。「ちょうどいい時にいらっしゃった」といわれたのですが、どこのさくらを見てもやはり時期というのは大事だと思います。

それで私はせっかく遠くから行く時に、やはり時期を外してはいけな思ひまして、よく電話で聞くのですがなかなか天候の具合でうまくいかない。それで角館は4月20日から連休がいいということを知りましたので、まずそのことを角館の町長さんにお聞きしたい。それから2番目に角館は、佐竹公のお膝元ですから武家屋敷がございますね。その武家屋敷を保存するための費用。いわゆるいま武家屋敷等があるところは、よく電線を地下に潜らせています。そういうのに莫大な費用がかかる。その莫大な費用がかかる場所にもってきてさくらの保存。それで写真で見ますとシダレザクラが多いようですが、シダレザクラは非常に弱いさくらです。ですからそれをどのようにして保存しているのか。また専門の樹医というのがあるのかどうか。それから武家屋敷、さくら、そういうものに対する年間の予算はどのくらいかかっているのか。そういうことについてお聞きしたいと思っております。

〔秋田県角館町・高橋〕 咲く時期はシダレザクラはおそらく4月24、5日がいいのではないかと考えています。あれは本当に一瞬でして、葉がすぐ出るのです。その葉っぱも薄い緑できれいなのですが、本当に花のつく時というのは、この天気ですと4月の24、5日だと思います。それからそれより少し遅れて桜木内川堤のさくらのトンネルというのは、2、3日遅れて咲きますので、花の

期間が短いわけです。うちのほうでも問い合わせがあった時に、どこに問い合わせてもきちっと同じような答をするようにしているのですが、なかなかいわゆる商工観光の業者さんの方々はなるべく長く発表してくれというのです。そういうことをしてしかられるのはわたしのほうです。もしよろしかったら役場の私のところに、直接電話をして頂ければ一番正確に答えますので、大丈夫です。

それから樹木医というのが、今日黒坂というのが来ていますが、うちのほうはいい意味のさくらのライバルに弘前があります。そこにもいい樹木医がいます。いろいろ情報交換してむしろ指導をして頂いてさくらの保存についてやっています。特に困ったのはやはりどうしても車の時代ですので、武家屋敷の通りを舗装しました。それが一番悪かったということで、いまいわれています。またそれを壊して砂利道にしようかということがあったのですが、実は秋にすごいお祭りがありまして、山車が通るのです。それが今あまり重くなりまして、砂利道にすると行かれなくなる。それも国の文化財なのですが、文化財同士がけんかをいたしまして、やはり砂利道でなくて舗装でも、優しい舗装をということで今工事をやっているところなんです。これは文化庁と建設省でいろいろ話あってやっています。

それからさくらの保存と保護ということですが、いま文化庁の記念物課と一緒に、今年と来年に1本ずつ調査をしまして、本格的に保存に取り組めます。しかしその前に文化財課というのがあり、桜係も別においていたのですが、今は文化財課と一緒にしております。職員は5人いまして、その他に文化財の武家屋敷の管理人が6人います。それから小さい町で70億くらいの予算なのですが、1億円くらいを文化財の保存に使っています。武家屋敷の保存というものは、人が住んでいますのでなかなか大変なのですが、一つはこの歴史と文化と関係があると思っています。やはり私どもはそれがあるということで、町の住民として誇りなわけです。その誇りを維持していくということが、桜の保護にもつながっていくのではないかと考えております。今回も佐野さんに来て頂いて、指導も頂くのですが、岩手大学にも林学のほうでいい先生がいますし、いろいろな方々もさくらの会を通じて指導も頂いております。そういうところで今やっているところなんです。よろしいでしょうか。

【篠田】 ありがとうございます。まだまだお訊きになりたいかも知れませんが、今の方について一応このあたりで終わらせて頂きたいと思っております。後ご質問される方はいらっしゃいますか。はいどうぞ。

【参加者】 北海道の静内町の町長さんにお尋ねしたいのです。チシマザクラというのが根室から千島列島にあるという話をきいたのです。何か灌木のようなさくらだそうですが、この南限はどの辺までか。それから色はどんなのか、できれば静内でそれを栽培できないのか。わざわざ根室まで行って見るのは大変ですから、近いところで栽培して見せてもらいたいなと思っておりますが、それをお尋ねします。

【北海道静内町・増本】 チシマザクラもやはりエゾヤマザクラの1種なのですが、咲く時期が遅いのと比較的木が小さいのです。やはり静内あたりでも育ちますが、さくらの華々しさといえますか、良さというのは在来のエゾヤマザクラのほうがよく見えるということで、本当に特殊な人だけが鑑賞用に植えているという程度です。時期的には5月末ですから、かなり遅い時期、それも根室半島をずーっと最果てのほうで、わずかこの地域にだけ樹生しているという状況です。したがってあまり普及はしていませんので、私どものところに持ってきて植えても、ちょっと見栄えがしないというようにお答えさせていただきます。

【篠田】 それでは時間が迫っておりますので、とりあえずご質問はここで終えさせてもらいたいと思っております。

ここまで、17の自治体のお話を聞いて頂いたわけですが、最後に私が若干まとめることになっていきます。先程お昼に食事をしながら各自治体のトップの方々とご相談を申し上げたのですが、このメンバー、今回は欠席されている市町村もあるわけですが、そういうメンバーで一つの協議会のようなものを作り、その協議会の名前でいろいろな情報を発信していく、ということも必要なのではないかなという感じを私は持っております。実は皆さん、つい先ごろ3月31日に第五次全国総合開発計画というのが、策定されたことをご案内かと思っております。今回の全国総合開発計画は、そういう名称での最後の計画だというようにいわれてます。その中の非常に重要なキーワードとして「連携」という言葉が使われております。参加と連携というようにいっていますが、特に連携という言葉が非常に大きな意味をもって書かれています。10年前の昭和62年の四全総は交流という言葉が時代のキーワードでございましたが、交流から連携へというそういう10年間の変化がございます。この私達のサミットも連携をして、協議会とか何かそういうかたちで連携をすることによって、この協議会ならではの情報発信というのできるのではないかなという気がするわけです。

例えばさくらというものは、大変弱いものであるということ、私の冒頭のあいさつの中で申し上げました。そういう弱いさをいかに大切に育てていくか。こういう点についての技術的な情報をこの協議会で、今日お越しの中には民間の方も何人かいらっしゃるということですが、そういう方々と一緒に頑張って勉強し合うということも、協議会であればできるのではないかなという感じがします。

それから全国には「地域の活性化をどのようにやったらいいのか」ということを非常に悩んでいる自治体が多いわけです。そういう中で「さくらというものをもって一生懸命やり、そしてそれなりの成果を挙げているこんな自治体があるんだよ」ということを全国の他の自治体に参考のために情報を発信していく、ということも非常に重要だろうと思うのです。そのためには例えばこの協議会で、若干お金を出し合って一つの本を書く。そしてそれを皆さんに買って頂く、見て頂くといったようなこともあってもいいのではないかな。イミダスなんていう言葉があります。いろいろな現代用語について解説をした

本であります、さくらのイミダスのようなものを一緒になって作っていくということもいいかなと思います。

それから、先程、住民の方々からお金を出してもらって植栽をしていくというのが、今日の17の自治体のうちで五つくらいあるということでございました。これなども各自治体がそれぞれ「オーナーになる方はいらっしゃいませんか」ということで全国に呼び掛けるというのもいいのですが、例えばこの協議会でもって「実はこういう自治体が、オーナーになりたい方に呼び掛けていますよ」ということをリストアップして、それで呼び掛けていけば、例えば自分がオーナーのさくらが、北は北海道の静内町にもある。あるいは高遠町にもあるということになり、例えば30年後にご自身が退職した時に、自分がオーナーである木に再会するために、旅をしていくというのも非常にいいのではないかと思うのです。そういうことで時代のキーワードは連携という言葉ですので、私はぜひともこのサミットの構成団体で一つのこと、二つのことが実際にやれるようなそういう連携ができていくといいなという気持ちをもっています。

それから会場のみなさんに一つPRのようなものですが、先程から花についてのいろいろな質問がございました。実は八王子の高尾に、これは農林省林野庁の森林総合研究所の中にあるようですが、多摩森林科学園というのがございまして、そこに大変広い面積をもって、さくらの保存林がございまして、過日私は行ってまいりました。まだちょっと寒い時でしたので、カンヒザクラが咲いている程度でしたが、そこに行きますとさくらについての、いろいろなことが分かる情報の宝庫になっています。高尾の駅から歩いて10分くらいですが、半日園内を歩きながら勉強をしていくということをおやりになると大変にいいのではないかと思います。料金は大人が400円ですので、お薦めをいたしたいと思っております。

それでは、先程も三春の方からそういう点のご意志の表示がございましたが、ここで改めてこのサミットに加わりたいという自治体の方が、いらっしゃいましたら挙手をお願いしたいと思います。それぞれの自治体の方は何々町だとか何々市ということがございましたら、そのことだけ取り敢えずいつて頂けますか。

〔参加者〕 岐阜県の根尾村です。薄墨ザクラの地でございます。こういうサミットがあるというのを、私達は全然知りませんでした。今日は10回目だということで、これも篠田副理事長さんのほうからお聞きして、いろいろ先進地のご意見を聞きたいということで、今日さっそく参加させて頂いたわけでございます。

今後もし、こういう機会に仲間入りさせて頂けるのなら、私達も喜んでご参加させて頂きたいと、かように思っています。よろしく申し上げます。

〔篠田〕 はい、ありがとうございます。では次にバトンタッチをお願いします。

〔参加者〕 はい、福島県の富岡町から参りました。町自慢をしたいのですが時間がございませんので、いずれそちら側に認知されました時に、改めて仕切り直しということで、一つだけ事業の紹介をさせていただきます。

手紙を募集しています。さくらにまつわる思い出の手紙の募集です。事業名は「さくら文大賞」。皆さん方の心の中にある、さくらにまつわる思い出、なんでも結構でございます。悲しかったこと、楽しかったこと、どんなことでもその背景にさくらがある思い出を手紙にして、300字から400字にまとめて私どもにお送り下さい。詳しいことは富岡町商工会にお問い合わせを頂きたいと思っております。

いずれまた「さくらサミット」で、お会いします。ありがとうございました。

〔篠田〕 ありがとうございます。すごいパワーでございますね。次はどうでしょうか、いいですか。三春さんはさっきいわれたから、よろしいのですか。

それでは、今「ぜひとも入りたい」という意思の表明がされたのですが、ご賛同の拍手をお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。

ありがとうございました。皆さんの満場の拍手でもって、承認がされました。ぜひともよろしく次回からお願いをいたしたいと思っております。それでは本日の討議を踏まえ、さらに第11回目からのサミットも見つめまして、今日第10回の「さくらサミット」の共同宣言を発表させて頂きたいと思っております。北本区長さん、よろしく申し上げます。

#### ■第10回さくらサミット共同宣言

〔東京都北区・北本〕 本日は大変貴重なご意見や実情をお話し頂きまして、心から厚くお礼を申し上げたいと存じます。

それではサミット事前会議で採択されました、「第10回さくらサミットin北区」の共同宣言を読み上げさせていただきます。

『共同宣言。今回の「さくらサミット」は、第10回の記念すべき会議として首都東京で、全国17自治体の参加により開催いたしました。「さくらサミット」は昭和63年から9回にわたり、参加自治体が誇る、さくらに関する共通の課題をテーマに開催して参りました。会議を通じて蓄積された提言、あるいは施策等は、参加自治体の貴重な財産となっています。第10回という節目に当たる今回は、これまで蓄積されてきた財産を総括する観点から、参加自治体が誇りとする「わがまちのさくらがつくる歴史と文化」というテーマで討議、情報交換を行いました。会議を通じて参加自治体のさくらにはそれぞれ固有の歴史があり、またさくらが町のシンボルとして、有形無形に地域文化やまちづくりなどに大きく寄与しており、さくらは町の伝統的な文化財産であることを再認識する一方、今後さらに彩られた地域固有の文化創造、あるいは地

域振興策などを検討し、さくら文化を21世紀へ引き継ぐバトン役として、その役割を果たすことを確認し合いました。今回のサミットを契機に、参加自治体がこれからどのように、さくらをまちのシンボルとして活用していくのか。そのためには何をし、これから何をしなければならないのかを真剣に考え、さらなるさくら文化の進展に向け取り組んでいくことを、ここに宣言します。

平成10年4月5日、「第10回さくらサミットin北区」参加自治体、北海道静内町、宮城県柴田町、秋田県角館町、茨城県日立市、群馬県鬼石町、埼玉県北本市、埼玉県幸手市、新潟県上越市、新潟県加治川村、長野県高遠町、奈良県吉野町、鳥取県西伯町、島根県木次町、長崎県大村市、熊本県水上村、宮崎県北郷町、東京都北区。「第10回さくらサミットin北区」、開催地代表北区長北本正雄。』

〔篠田〕 皆さんから大変な拍手でもって、了承を頂きました。こういうことで共同宣言は、終えさせてもらいたいと思います。以上で全ての議事は終わりました。皆さん方のご協力を心から感謝いたしたいと思います。ありがとうございました。

〔東京都北区・北本〕 次の第11回の開催は南国、宮崎県北郷町さんをお願いいたします。

#### ■次期開催地首長あいさつ

〔宮崎県北郷町・植野〕 それではごあいさつを申し上げます。次回の第11回「さくらサミット」開催地のご決定を頂きました、宮崎県北郷町町長の植野でございます。

宮崎県は日向の国ですが、古事記には天孫の瓊瓊杵尊が「ここは朝日のじきさす国、夕日の日照る国なり」といわれ、また日本書紀では「この国はただちに日の出るほうに向け」といわれたことから、日向の国と名づけられたとあるように、太古の歴史と数々のロマンを秘めた神話の里です。私も第11回のサミットが、有意義なものになりますよう諸準備を行い、宮崎の地で精一杯皆さまをご歓待させて頂きたいと思います。

宮崎県は来春「全国都市緑化宮崎フェア」いわゆる「グリーン博・宮崎」が全県を挙げて開催されます。また合わせて県内各地では、花と緑にちなんだ催しが数多く開催されることになっており、町制施行40周年を迎える私どもの町で、このような機会に「さくらサミット」の開催をさせて頂くことは、誠に光栄に存じているところでございます。サミット開催はサンサンと輝く太陽と緑と花につつまれ、一年で最も素晴らしい季節を迎える3月下旬から4月上旬にかけて「グリーン博・宮崎」の開催に合わせ、実施させて頂きたいと考えています。

「グリーン博」はもちろん、県都宮崎市にある宮崎シーガイア施設や風光明媚な日南海岸など宮

崎ならではの施設等のご見学を頂けるものと考えています。ぜひともサミット加盟各自治体の皆さまには全員ご参加頂けますよう、心からお待ち申し上げます。

最後になりますが、今回の「さくらサミット」開催にあたり特別のご配慮、ご尽力を頂いてまいりました、東京都北区の北本区長さんをはじめ、関係の皆さんに心から厚くお礼を申し上げ、この「さくらサミット」の益々のご繁栄と加盟自治体のご発展を祈念いたしまして、お礼のごあいさつとさせていただきます。

## 第10回さくらサミット in 北区 【記録誌】

---

「さくらがつくる歴史と文化—わがまちの桜—」

発行日／平成10年8月

発行者／東京都北区（区民部地域振興課）

東京都北区王子本町1-15-22

TEL.03-3908-1111（内線2424）

企画・協力／㈱ぎょうせい クリエイティブシステム

---

記載内容の無断転載を禁じます。